

平成28年度学校評価の報告について

教育推進部教育指導課

- 学校評価は、「学校運営の改善を目指し、教育水準の向上を図る」ことを目的とし、各学校園が、自校(園)の教育活動その他の学校運営の状況について、以下のとおり評価を行い、その結果に基づき必要な措置を講ずることが、平成19年改正された学校教育法、同法施行規則に示されている。
 - ①教職員による自己評価を行い、その結果を公表すること
 - ②学校の自己評価について保護者などの学校の関係者による評価（「学校関係者評価」）を行うとともにその結果を公表するよう努めること
 - ③自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者に報告すること

- 文京区教育委員会では、法改正に基づき平成20年度より学校評価を実施している。平成21年4月に「文京区立学校関係者評価委員会設置要綱」を定め、「学校関係者評価委員会」を組織して、学校関係者評価を実施することとした。平成22年度には、各学校からの学校評価報告とともに、区全体の状況を把握するための参考として、学校関係者評価に区共通項目を策定した。

- ここに、平成28年度学校評価の報告における区立学校(園)の重点目標及び目標ごとの学校関係者評価とともに、学校関係者評価区共通項目の集計結果を示す。

- 教育委員会では、各学校からの学校評価報告を受け、学校支援の具体的な手立てを講じるとともに、教育施策の実行状況や進展状況を把握する資料とする。

平成28年度学校関係者評価共通項目（集計結果）

(園)

幼稚園		A	B	C	D	区平均	
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が、適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	4.00	A
2	具体的取組の設定は、適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	4.00	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	10	0	0	0	4.00	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	10	0	0	0	4.00	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 （学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	10	0	0	0	4.00	A

(校)

小学校		A	B	C	D	区平均	
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が、適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	19	1	0	0	3.95	A
2	具体的取組の設定は、適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	18	2	0	0	3.90	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	17	3	0	0	3.85	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	16	4	0	0	3.80	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 （学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	16	4	0	0	3.80	A

(校)

中学校		A	B	C	D	区平均	
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が、適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	4.00	A
2	具体的取組の設定は、適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	4.00	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	10	0	0	0	4.00	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	8	2	0	0	3.80	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 （学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	10	0	0	0	4.00	A

※各関係者評価委員が4段階で評価した学校(園)の平均値を下記の基準をもとにABCDの4段階で評定したもの。
 (A: 4~3.4以上、B: 3.4未満~2.6以上、C: 2.6未満~1.8以上、D: 1.8未満)

平成28年度文京区立幼稚園・小中学校 学校評価 重点目標

※数字は、重点目標に設定した学校園数（のべ数）

幼稚園（10園）		小学校（20校）		中学校（10校）	
家庭・地域との連携	7	学力向上	20	学力向上	10
教職員連携（チーム力向上）	7	豊かな心・人間性・感性の育成	17	豊かな心・人間性の育成	7
信頼される園づくり	4	健康・体力の保持増進	13	体力向上	3
心と体の育成	4	家庭・地域との連携	10	生活指導の充実(健全育成)	3
安全・安心な園づくり	4	特色ある教育の実践	4	信頼される学校づくり	3
一人一人のよさを引き出す教育	2	学校（組織）力の向上	3	特色ある学校づくり	3
		教育環境の整備	3	安心・安全な学校づくり	2
		安全・安心な学校づくり	2	進路指導・キャリア教育の充実	2
		教師の指導力の向上	2	施設環境の整備	1
		ICTの活用	1	家庭・地域との連携	1
		開かれた学校づくり	1	開かれた学校づくり	1
		一人一人を大切にする教育	1	教職員の専門性・指導力（資質）の向上	1
		信頼される学校づくり	1	自己肯定感を高める教育	1
		教育課題	1	道徳の充実	1
		学校間の連携	1	社会性の育成	1
				教師力・チーム力の向上	1
				広報の充実	1
				適応指導の充実	1
				学校評価の工夫・改善	1

平成28年度 保護者アンケート(区共通項目)集計結果

質問項目	幼稚園				
	とてもあてはまる(%)	まああてはまる(%)	あまりあてはまらない(%)	まったくあてはまらない(%)	わからない・無回答(%)
1 本校(園)の教育活動に満足している。	67.0	30.0	2.1	0.3	0.6
2 本校(園)の子どもたちは、学校が楽しいと感じている。	77.8	21.4	0.3	0.1	0.4
3 本校(園)では、一人一人が大切にされ、子どもの人権に配慮した教育が行われている。	64.8	32.2	1.4	0.3	1.3
4 本校(園)は、特色ある学校(園)づくりに積極的に取り組んでいる。	64.5	31.4	2.9	0.3	0.9
5 本校の授業は、子どもにとって分かりやすい内容である。【小・中学校】	63.7	30.9	2.2	0.9	2.3
6 本校は、一人一人の幼児理解に努め、適切な保育に努めている。【幼稚園】	56.2	35.8	3.4	0.8	3.8
7 本校(園)では、子どもの安全管理や事故防止に努めている。	61.1	33.7	3.1	0.7	1.4
8 本校(園)は、保護者や地域に対し、積極的に情報を発信している。	62.9	33.5	1.8	0.8	1.0
9 本校(園)は、保護者の意見・要望を受け止めながら、協力して教育を進めようとしている。	57.6	36.6	3.5	0.8	1.5
10 来校時や電話での本校(園)の教職員の学校職員とのあいさつや対応は、適切である。	77.4	20.3	1.4	0.4	0.5
11 現在の本校に総合的に満足している。(幼稚園のみ)	72.8	24.4	1.8	0.4	0.6

	小学校				
	とてもあてはまる(%)	まああてはまる(%)	あまりあてはまらない(%)	まったくあてはまらない(%)	わからない・無回答(%)
	45.3	47.2	4.4	1.2	1.9
	55.0	38.5	3.8	0.8	1.9
	41.5	45.2	5.7	1.8	5.8
	48.0	40.6	5.7	0.7	5.0
	43.5	48.0	3.6	1.0	3.9
	31.2	38.4	6.7	2.7	21.0
	45.6	43.8	3.5	1.2	5.9
	44.8	44.9	5.7	0.9	3.7
	41.4	45.0	5.0	1.4	7.2
	62.8	31.8	2.6	1.0	1.8

	中学校				
	とてもあてはまる(%)	まああてはまる(%)	あまりあてはまらない(%)	まったくあてはまらない(%)	わからない・無回答(%)
	28.6	59.3	9.3	1.1	1.7
	30.6	57.4	6.5	1.2	4.3
	26.1	54.2	9.8	2.4	7.5
	23.3	47.9	14.5	5.2	9.1
	21.5	49.9	12.4	4.5	11.7
	20.5	37.9	9.0	9.0	23.6
	28.2	54.9	5.0	1.8	10.1
	28.4	52.8	10.1	1.9	6.8
	22.7	47.8	22.9	2.4	11.1
	53.2	36.9	7.3	1.1	1.5

※ 数値は、各学校の平均値

幼稚園 重点目標ごとの関係者評価【肯定的な意見】抜粋

<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校のボランティア部とのかかわりが増えている。高齢者対象から、年下の子どもたちへと活動の幅が広がっている。児童館は降園の早い3歳児を中心に活用されている、 ・ 幼稚園の帰りにたくさんの幼児と保護者が児童館に寄ってくれて、話をしている姿が微笑ましい。園長先生を始め先生方が頑張っている姿が保護者の方々に伝わって、安心感につながっている。 ・ 保育園の年長組との遊びの交流、小学校1年生、5年生との交流、中学生との交流(含む：職場体験)は子ども達も喜んで楽しみにしており今後も継続していきたい。 ・ 中学校との交流の一つに凧揚げがあるが、広い園庭を实によく走っていて元気である。とても成長を感じる。 ・ 園側が保護者や地域の意見に対して一つひとつ回答しているので、とても安心している。 ・ 盲学校との交流は、幼稚園が心に響く出来事として演出していると感じる。障害の有無にかかわらず、一緒に生活することが土台となるような交流ができてよかった。
<p>教員の指導力の専門性向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園内研修会に参加し、保育園の保育者も共に学ぶ機会となった。 ・ 幼稚園ではねらいに基づいて、幼児が自分で考えて主体的に行動できるよう、教師が表に出過ぎず援助している。経験もきちんと積み重ねている。
<p>安全づくりに安心な園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いつ園を訪れても、散歩に行かなくてもよいくらい、園庭が充実している。子どもたちがにこやかで伸び伸びと過ごしていることが分かる。 ・ 幼児の健康面を含めての安心安全な取り組みを、教育と預かり保育で取り組んでいることが分かる。 ・ 子どもにとっては寝る・食べる・十分に遊びを満喫することが未来につながっていく。 ・ 木々が多く、季節を感じることでできる環境があり、子どもにとってとてもいいと思う。 ・ 教員や主事、預かり保育担当職員など、体制が新しく変わった中「心を育てる」「学びの芽を育てる」ことに目を向け、教職員が課題を理解し、心を一つにして取り組んでいる。 ・ 避難訓練、防犯訓練、安全指導は様々な想定で訓練を積み重ねている。地域の情報を集めたり、園から発信したりする機会をこれからも活用してほしい。
<p>心と体の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の中で自分の気持ちと相手の気持ちを考える大切さが身に付いている。3歳保育が始まり、異学年交流を盛んになった様子を子どもたちから声を聞いている。 ・ 幼児のコミュニケーション能力を高める取り組みは、園内研究で取り組んでいる身体表現と共通する内容である。小中学校の生活のみならず、様々な人と言葉を交わし思いを伝え合う力を今後も高めてほしい。 ・ 自然環境の豊かさだけでなく、園舎内の装飾などから季節感が伝わってくる。日本の伝統行事に触れあうことを大事にしている心育成に繋がっている。 ・ サッカー教室など地域力を活用しての取り組みがある。見て楽しむ、やって楽しむという運動に対する意識の向上にも積極的に取り組んでいる。 ・ オリンピック・パラリンピック教育や運動能力の向上、インクルーシブ教育の推進をしっかりと取り組んでいる。
<p>共に生きる力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てに関する保護者へのアンケートに「子育てを楽しみ感じたことについての問いがあったが、子どもとしっかりと向き合っている様子が伺える。 ・ 園生活で起きた問題に対する対応について、園での指導の経過を随時保護者に伝えていくことや、園庭開放での子どもの姿を目にする機会に保護者の協力も得ていくなど、協力していくように努力したことが、よい評価に繋がっている。
<p>遊びの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のやりたい遊びがあり、元気に通ってくる姿は、親の安心感にもつながる姿である。 ・ 共通体験したことが幼児に断片的に残り、みんなのイメージを合わせたものが物園ごっこにつながっていた。体験の大事さ、研究の成果を感じる。

幼稚園 重点目標ごとの学校関係者評価【改善に向けた意見】抜粋

<p>家庭 の連携 ・地域と</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は「転ばぬ先の杖」で、文字や数など知的なことが身に付くと安心する。幼児に一番必要なことは、直接体験である。実体験を通して、感動したり驚いたり不思議さを感じたりする大切さを伝え続けてほしい。 ・地域との関わりを課題として捉えているが、改善策が見えてこない。教員はやっているのではないか。地域と関わるという視点をはっきりともって評価をするとよい。
<p>の向上 ・教員の専門性・指導力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間の報告、連絡、相談において、預かり保育の当番などで教員が全員そろっての打ち合わせ、話し合いをする時間の確保が難しくなっている現実がある。その中で、教員間での情報の共有はしっかりとってほしい。 ・もっと絵本に親しめるよう図書室の絵本の置き方を工夫したり、園からのお便り等で、おすすめの本を紹介したりしてもらいたい。
<p>安全 ・安心な園づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事は子どもたちにとって楽しい反面、とてもストレスを感じるので、日々の園生活がもっと穏やかに且つ、密度が濃くなるとよい。 ・子どもたちをいろいろな場所に連れて行ってあげてほしい。視野を広げ、感性を豊かにしていくことができる。 ・安心安全な取組に力を注いでいることが分かる。しかし、幼児は大人が気を付けていても一瞬でケガをする時がある。安心安全な取組とともに、たくましさを育み、保護者にもその重要性を啓発していく視点に加えてほしい。 ・幼稚園と小中学校、保育園、町会で顔を合わせ、連携を深め、いざという時には助け合えるようにしたい。 ・安全面については、とても重視しているので、今後も継続してもらいたい。
<p>子育て 支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども劇場を完全入れ替えにした経過は分かるが、子どもと話が共有できるように他の学級の演目はビデオなどで見られるようにしてはどうか。 ・学校医の話でスマホの弊害について話があった。園でも子どもの手で作ることが大切である。スマホの取り扱いやアプリの活用など保護者と考えてほしい。
<p>遊びの 充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和の遊びを、子供たちに経験させたい。 ・遊びの中で様々な力が育っている。発信を工夫し、わかりやすく保護者・地域にも伝えていけるとよい。地域には何が育っているのか見えにくい部分がある。

小学校 重点項目ごとの学校関係者評価【肯定的な意見】抜粋

<p>学力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業を丁寧に実践し、個人差や個の実情に応じた指導が実施されている。子どもたちの自己評価が昨年度も飛躍的な伸びが見られたが、今年度も昨年度比で2%も伸長している。伸びに驕ることなく、教職員が不断に努力している様子がうかがえる。 ・「電子黒板」や「目当て黒板」の活用をはじめ、「わかりやすい授業」に向けた先生方の工夫ある取り組みが奏効しているものと思われる。 ・授業研究の成果や全職員が毎時間のめあてを明確にもち、授業に臨んできた成果であると捉えられる。算数の少人数指導は発言の機会も増え大変良い。 ・ユニバーサルデザインの視点に立った学級運営と授業づくり。パンフレットにまとめられた校内研究の資料を見ると、指導の方法が的確明確に表現され研修や研究が授業に役立っている、その結果はアンケートにも高評価として現れている。また振り返りも良くされ、デメリットが今後の指導改善に役立つものと推測する。 ・少人数指導における学級編成は、一人ひとりの児童の実態を把握しているので安心して居る。このことが学力調査の結果にも表れているので、今後の指導も期待できる。 ・全室電子黒板の導入により子どもたちは電子黒板を通じて勉強の仕方や面白さを学び始めたと思います。電子黒板の使い方については教職員の活用の仕方に期待します。 ・「確かな学力」学力の基礎・基本を身に付けるため、子どもにとって分かりやすい授業を心がけている。全学級が同じ学習過程で学習できていることは、授業公開日に授業参観しているとよく分かる。 ・今次求められている授業での主体的・対話的で深い学びを実現するには、授業中に児童集団が一定の学習規律に支えられている必要がある。今年度、校内で統一的な学習規律（スタンダード）づくりに着手している。確かな学力を付けるための授業展開、そして協働的な集団での学びを展開する上で、教師と児童とが学習規律を共有し、改善を図りつつ充実させてゆくことが期待される。
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA、学校支援地域本部、朝会等の支援連携がよく、その結果はアンケートの結果が各項目とも90%以上の肯定的な評価である。 ・地域の人材を活用したゲストティチャーによる授業が多く取り入れられていることは、地域の情報・共有、伝承という視点で、地域と関わりをもって生きていく子どもたちにとって極めて大切である。 ・学校支援地域本部がPTAと協力して、児童の情操教育のために親子講座を開催している。出前授業等の講師人材を探してくれるので有難い。 ・PTA行事、地域の行事に先生方が参加してくれると、子どもたちの意欲も高まるので、今後お願いしたい。

<p>豊かな心・人間性・感性の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「なかよし班」活動等の異学年交流や特別支援学級との「交流・共同学習」が日常的になされ、温かい人間関係が育まれている。特に、上学年の子どもたちの下学年への気遣いが顕著に見られる。 ・昨年度に課題とされた挨拶について、「声を先に」の指導徹底により、教職員・児童ともに成果を実感できている点が素晴らしい。また、「物事をやりとげる」や自己肯定感の高さも学校全体で共有している表れと推察できる。 ・アサーションプログラムは、他者理解教育では効果的である。規範意識の向上にもつながるものである。 ・一人ひとりの児童を大事にしており、道徳の授業を含め、学校教育の様々な場面で心の教育を推進しており、人権が配慮されていてよい。 ・あいさつや言葉遣いに関して、保護者の肯定的評価が向上した。学校が周知・啓発したため、児童に浸透し、保護者も認知するようになった結果と捉えている。 ・情報を扱うときには緊張感が必要である。親が教えるべきではあるが、学校で授業として教えるのはとても効果的である。 ・相手を思いやる気持ちや偏見、差別をしない心情が育ってきている。
<p>実践色ある教育の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・演劇活動や自然体験活動、和食を知る活動など、学校のブランドとして総合的に発展していくことが望まれる。 ・書初め、和楽器体験、町探検、戦争体験講話など、地域の人材を活かした特色ある活動は児童の知的好奇心を高める。今後も続けてもらいたい。ジュニアオーケストラの活動も指導が行き届き、校内コンサートや地域のイベントで活躍。児童や地域からの興味も高く評価は高い。
<p>増進 体力の向上・健康の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業を中心に、子どもたちの体力の向上や健康への関心を図るために日常的な取り組みを続けている。「体力アップタイム」、「なわとび朝会」、「マラソン朝会」等。特に、「体力アップタイム」を設定することにより、授業の中で「サーキット型」の運動を取り入れる学級が増えている。 ・体力面において外部講師などの活用により前年度とは違う取り組み方で子供たちの意識も変わりつつあると思います。
<p>生活指導の充</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動を通して日々の挨拶の指導が行われている。また、いじめの防止、早期発見、迅速な対応を心がけており、異学年との交流を通じて温かい人間関係が育まれている。 ・学校でのトラブルをきちんと対応してくださり、ありがたく思っている。適切な指導を子供だけでなく親に対してもしていただいている。
<p>開かれた学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、児童の安全管理や事故防止に努めている」の問いに、約8割の保護者が「あてはまる」と回答している。毎月の安全指導日における先生方の指導はもとより、地域の方々の協力による登校指導や日常的な目配りが、児童の安全を支える大きな力となっているものと思われる。 ・情報発信が適切に行われており、豊かな学びに保護者や地域が協力することに役立っている。避難所訓練等を含め地域との関係が大変良好で、今後もこの関係を続けてほしい。
<p>安全・安心な学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導週間はもとより、地域の方々の協力による登校指導や日常的な目配りが児童の安全を支える大きな力になっていることを確認した。 ・子供たちが来校者への挨拶、地域でまちの人への挨拶ができるようになるよう、引き続き指導をしていただきたい。 ・スクールガードや町会等の地域の目が、校内における教職員の目を補完する役割を担っており、地域と学校との二人三脚が、トラブル等の牽制機能・未然防止に寄与しているものと評価される。

小学校 重点目標ごとの学校関係者評価【改善に向けた意見】抜粋

<p>学力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全体としては、年間の学習計画や行事計画の見直しを図ることで、6年間を見据えた充実したカリキュラムの創造を目指す、とする提案がなされた。 勉強が分からない、意味が分からないと言っているようだが、丁寧な対応を心掛け、粘り強く指導にあたってほしい。また、各教科で電子黒板やタブレットの活用をさらに有効に活用して欲しい。 新学習指導要領のキーワードである「主体的、対話的で深い学び」に関わり、授業中で質問や発言をためらう児童の実態が、児童の質問「7」の結果や保護者の声からも浮かび上がってきた。「対話的」な授業とは何か、そのための教師側の手だては何か。互いに学力を高め合う学習集団づくりの観点から、今後も引き続き検討を深めて欲しい。 基礎学力の定着が見られない児童については、個々に補習をしたり、習熟度別の宿題を出したりするなど、具体的な方策を考えてもらいたい。 国語の力を伸ばすという方向性はいいと思う。国語の力が不足すると、他の教科にも影響を及ぼし、子供たちの可能性や伸びしろを縮めてしまう。国語力の向上を期待する。 電子黒板やタブレット等の効果的な活用や専門家による指導、体験学習の充実を一層図り、児童の理解を深め、楽しく学べる授業づくりに期待する。 学力の二極化傾向が明らかである。学習につまずきのある児童について個に応じた工夫が必要であることはもちろんだが、習熟の早い児童に対しても手だてが必要である。
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携については、こども達への見守りという観点から町会・商店会との連携がより一層必要と思われる。また、学校から地域への情報発信を増やし、地域の協力があればこのようなことをこども達の為にしたいという事を発信できればよい。 地域と学校との関係を見た場合、学校行事への町会からの参加には特段の問題は見受けられないものの、町会の祭り等への教職員招請は教職員の休日出勤を伴うため、どうしても管理職による対応にならざるを得ない部分がある。 夕涼み会や千駄木マラソンなど、地域やPTAの行事において、教職員が地域の方やPTAとのよく連携してくださっていると感じていてありがたい。 学びの充実のためには、保護者ボランティアによる読み聞かせや英語活動、地域ボランティアによる地域の歴史や戦争の話など推進してもらいたい。
<p>豊かな心・人間性・感性の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人格と個性を尊重し、自己や他者を大切にす心情を今後も丁寧に育んでいく。今後も保護者との連携をきめ細かく実施する。 あいさつについては、昨年度に比べ改善が図られている。今後は、特別活動部を中心に児童の主体的な活動に取り組む。また、登校指導時等に積極的に働きかけていく。 「あいさつ」や「言葉遣い」など規範意識については、人間性を高める意識レベルの改革が必要になる。 家庭・地域との連携をさらに深め、児童の豊かな人間性の育成、心の教育を推進していく。 家庭や地域と子どもたちの心の育成にかかわる課題を共有し、子どもたちの健全育成に向けて取り組む場所を作り、放課後授業や中学校との連携等の交流により、子どもたちが自然に相談できる環境づくりをさらに推進する。 自分の気持ちを正しく伝えることができないために誤解を生じ、トラブルになることも多い。指導者が気持ちを聞き出したり、児童が互いに気持ちを認めあったりすることが大切である。 トラブルの時のみに限らず、日常から学校と家庭間のコミュニケーションを図っていきたい。ご連絡いただければ家庭で対処できるところも多いと思うので、お願いしたい。 規範意識や挨拶の励行は各家庭での指導が重要。各家庭への指導協力の要請は常に必要あり。今後、生活指導面でのスタンダードの確立で教職員と家庭、地域で規範意識を高める指導、挨拶の励行が児童の学校生活の充実につながる。 「居住まいを正したあいさつ」「相手や場に応じた言葉遣い」「4つの言葉」など、重点を置いて指導してきたという話だが、定着したとは言い切れないのではないかと。学校だけの問題ではなく、家庭へ呼びかけ家庭と協力して、家庭での指導にも力を入れてもらう必要がある。 クリーン作戦の回数を増やしたり、キャリア教育や伝統文化を体験したり、パラリンピック選手の話聞く機会をもったり等、様々な場面を用意し、今後も子どもの心を耕す教育が行う必要がある。
<p>教育の実践 特色ある</p>	<ul style="list-style-type: none"> 菊づくりは大変であると思うが、本校の特色ある教育の一つであるが、目標通りに行われているかどうかは疑問が残る。 地域密着型の学校づくりには、家庭・地域と連携した学校運営・教育活動を推進することが大切である。そのためには、地域の教育力の活用が必要である。

健康・体力の保持増進	<ul style="list-style-type: none"> 「短縄検定」「竹馬検定」「一輪車検定」等の取組みを今後も重視して、更なる子どもたちの体力増進を図ってほしい。 生活様式や外遊びの時間の変化などの要因があるが、家庭との連携を図り、体力向上プログラムの実践を推進してもらいたい。家庭教育の重要性を保護者が認識できないと学校の取り組みが半減する。 基礎体力向上は積年の課題であるが、施設設備等環境の整わない現状もあり、取組の工夫にも限界がある中、次年度は体力テストで見いだされた具体的な課題に焦点を当て、授業の中でその課題を克服する工夫に着手する予定である。今年度2月に始める朝の校庭開放の工夫等と合わせ、児童への実際の効果をきめ細やかに検証しつつ、その結果を踏まえながら、常によりよい方法を模索しつつ、改善を図って欲しい。
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 日々成長する子どもを対象に授業を展開し、答えが一つに限られない対応を求められる職業であるだけに、多過ぎる要求は教職員の萎縮につながり兼ねない。地域が常に教職員に対して門戸を開いているということを知らせることが、大事なことだと考える。 学校は子どもたちのためにある。学校は子どもにとって、知的好奇心が満たされ、成長がみとめられ、明日への希望がもてる場所であればならない。「児童ファースト」の学校運営・教育指導に徹することが望まれる。
開かれた学校づくり (情報発信を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との情報共有をより密にするには、学校の求める情報と保護者の求める情報の不一致を解消することが重要である。保護者へのアンケート結果については否定的な回答を精査するとよい。 コミュニティースクールは開かれた学校づくりを支える体制基盤である。学校と地域が一体となって日頃から児童を支える体制が整っており、それが強みでもあった。しかし、このことが学校運営協議会の委員には学校への実質の協力は惜しまないものの、必ずしも体制としての会議への参加に十分つながっていないことが、協議会の自己評価アンケートから伺える。学校運営協議会委員はコミュニティースクール運営の核である。とりわけ地域住民の確実な参加には困難の伴うことは重々理解できるが、全委員ができる限り学校を訪問し、直接児童の様子や学校の状況を把握して、学校の運営や課題をめぐり議論を交わすことの出来る体制づくりを目指して欲しい。
安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 校舎の老朽化が心配である。また、トイレの改修も進めてほしい。災害に備えて防火用水の確保をお願いしたい。 PTA、学校支援地域本部、おやじの会との連携において、子どもたちのためにできることを整理していく。 組体操については様々な報道があり安全について心配があるが、組体操の内容や技の見直し、補助教員の増員、教員研修の実施等を徹底し、安全第一で実施してほしい。

中学校 重点項目ごとの学校関係者評価【肯定的な意見】抜粋

<p>学力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業が分かりやすい」の設問に対して、生徒の肯定的な数値が80%を超えているというのは、学校の研究の成果が反映させていると裏づけできる。また、ユニバーサルデザインを視点にした授業改善がすべての教科において反映できた。 ・研究授業の主題を「プラスワン授業」とし工夫をすることによって、どの授業でも当たり前前に「自分の考えを持つ・しっかり表現する・他の意見を受け学び合う」形が自然にできている。 ・英語検定や数学検定などでも高い合格率を示すなどしっかりとした結果を出している。また、補習教室などで学習のフォローも行っており、基礎学力の定着にも力を入れている。 ・「グローバル化社会を見据えた教育」の取り組みで放課後英会話講座を実施し、英語にコミュニケーション能力の伸長を図る。については、継続学習の実施と直接に外国人とコミュニケーションする場を設けたことは特筆されます。 ・アクティブボード、タブレット型情報端末を活用した授業を昨年度から取り組んでおり、工夫改善を進めて生徒の思考力、判断力、表現力が向上した授業が行えるようになった。
<p>豊かな人間性の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック教育4×4の取り組みを通して、学校活動全てをそこに当てはめ、生徒がオリンピックを自然と意識し、目的意識をはっきりとさせた活動となるよう工夫がなされている。ここから生徒たちによる自発的な意識が生まれてくる。 ・生徒の人権の尊重や部活動と学習の両立など高い評価を得ています。これは、生徒の部活動参加率85%に加え積極的な自宅学習など生徒や家庭の意欲的な取り組みが実施されたと判断します。 ・今年度も部活動や授業において教職員が良く努力していた。今後も教職員が保護者や地域と協力して、さらに良い学校にしていってほしい。 ・「オリンピック教育推進校2年目として生徒のオリンピック、スポーツに対する関心を高め体力の向上を図る」については、サントリーラグビー部による親子イベント等の外部スポーツ団体との交流をはかり日ごろ縁のすくないスポーツを生徒に身近なものにしました。 ・生徒のアンケートにおいて、『学校が楽しいと感じる』や『先生たちは、生徒の安全管理や事故防止に努めていると思う』という項目で『とてもあてはまる』が『まああてはまる』の数値を上回り、学校の環境がとても良いことが感じ取れる。 ・「基本的な生活習慣」がしっかり身につけている様子が伺える。「魅力ある道徳の授業」では公開講座を通して生徒の生命尊重や思いやりに対する意識が向上した様子が伺える。
<p>教職員の専門性・指導力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間2回の全職員への研修、年間8回以上の研修主任に対する研修などを実施したことが特筆されます。
<p>開かれた学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた学校づくりの推進として、Webページの行事後のすみやかな更新や学年だよりなどの各種情報発信資料の充実、近隣の小学校との連携を図るために行った避難訓練後の学校見学や学校行事のお手伝いなどが実を結び平成29年度の入学希望者が受け入れ可能人数を大幅に上回ったと考えられる。 ・学校便りの発行、お便りの地域、小学校への配布、ホームページの更新など、学校の取り組みをPRする活動が計画的に進められている。
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の対応や指導については概ね良好である。特に特色ある学校づくりでは、せるすたクラブ、伝統文化理解、オリンピック・パラリンピック教育、検定対策、保育園との連携など多くの取組に対して、肯定的であり、地域・保護者からの理解を得られた中で、実践できている。 ・生徒による下町まつりの参加や各行事のボランティア活動により、近隣の小学校や町会、地域へのPR活動に力を入れることができた。 ・生徒会のプロジェクト活動を中心に、健全育成会・青少年委員会・近隣小学校・高等学校と関わりを持ち、ボランティア活動へ参加していくことは素晴らしい。学校からの働きかけがきっかけとなってボランティア活動へ興味を持つケースも多い。
<p>信頼される学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の熱心な指導・対応により、生徒は昨年度以上に学校行事（運動会・学習発表会…）に意欲的に取り組み、充実感と達成感を感じることができた。また、保護者も非常に満足していることが感じられる。

中学校 重点項目ごとの学校関係者評価【改善に向けた意見】抜粋

<p>学力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を苦手と感じている生徒や「授業が分かりやすい」の設問で肯定的な評価が得られなかった10%前後の生徒に対するの底上げの対応を行っていくこと。年度当初からの学習支援員の導入と補充。教員の指導方法さらなる工夫改善、タブレットの活用が必要である。 ・個別指導は生徒の状況が一人一人異なるが、放課後の計画的な補習などを引き続き実施し、一人一人に応じたきめ細かい指導に期待する。 ・生活指導は充実しているの、今こそ学力向上に力を入れて欲しい。受験で高得点を取るような目先のことではなく、しっかりとした学力を身に付けさせてもらいたい。 ・「学習環境の確保」「教材の工夫」「指導方法の工夫」いずれもアンケートの結果からも高評価が得られていることが確認できる。
<p>人間性の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が日ごろより取り組んでいる安全管理や事故防止教育が認知されていない可能性がある。生徒や家庭、地域できちんと認識されるための活動（HPからの発信などの広報活動）を検討、実施する必要がある。
<p>教職員の専門性の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブボードなどのICT教育機器の導入により、生徒からは学習効率が上がり理解しやすいとの声がある反面、否定的な意見も多いことから、より良い使用方法の研究、教員の実務研修を含めた検討をお願いする。
<p>開かれた学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より個別の事情に対応できる情報収集による活動の向上が図られることを望みます。 ・生徒のアンケートにおいて、『学校は特色ある学校づくりに積極的に取り組んでいると思う』や『先生たちは学校生活で起きた問題に素早く対応している』といった質問に対し、『あまりあてはまらない』という回答がやや多かったので、学校全体で取り組み今後の改善につなげてほしい。
<p>信頼される学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのリニューアルにより、肯定的評価が増加しているが、より多くの方に評価していただけるよう更なる内容の充実と更新に努力してもらいたい。 ・生活アンケートを年3回実施しており、いじめの件数は減少方向にあるが個別指導、学年指導、全体指導を行い今後も改善に努めていく。 ・信頼される学校づくりのために、学校の指針を、学校を取り巻く関係者にPRするためのツールの強化・改善活動が求められる。
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活躍や生徒会を中心とした地域清掃ボランティア活動など、より活動が多くあるが、ホームページなどで広報活動が足りないと感じる。PTA広報誌やホームページなどで広報活動を積極的に行っていく。 ・保幼小中の連携をさらに推進して欲しい。特に小学校と連携する機会を増やして第十中学校の良さをどんどんアピールしてもらいたい。そして、そのことにより生徒の増加を図ってもらいたい。 ・保護者に対する学校の取り組みのPR活動の強化、生徒に対しては、各種検定講座などへの積極的参加の促進などが求められると判断します。